

にいがた

生涯学習ネットワーク

第11号
2020.10.31

この情報紙では、県内各地の社会教育活動を紹介していきます。

編集・発行：新潟県生涯学習協会 調査・広報委員会
*「にいがた社会教育」から数えて451号になります。

〒950-2004 新潟市西区平島1301番地 中野プラザ107号
TEL・FAX : 025-266-1120
E-mail : syakyo56@feel.ocn.ne.jp HP : <http://www.niigata-lla.com/>



コロナ禍で子どもたちが心配!
何かできることは…と思っている皆さんに



新潟県立生涯学習推進センターの人材バンクに 地域の人材として「市民先生」登録をしませんか!

市町村やNPOなどの民間団体からの依頼で条件が合えば紹介できるシステムです。

市民先生活動例

※教員免許等の資格は不要です。

- ◆小、中学生の教科学習支援（支援教科や対象学年は選べます）
- ◆小、中学生の英会話
- ◆子ども対象の地域の歴史
- ◆子ども対象の調理実習
- ◆やさしい工作 ◆昔遊び
- ◆読み聞かせ
- ◆子どもの活動見守り 等々



《市民先生の登録方法》

登録先は新潟県立生涯学習推進センターの生涯学習情報提供システム「ラ・ラ・ネット」です。
ラ・ラ・ネット内にある指導者情報調査票（登録用紙）をダウンロードし、必要事項を記入の上、郵送にて県立生涯学習推進センターへ送ります。
持参も可能です。また、新潟県生涯学習協会のホームページでは、登録用紙入手案内及び記入についてわかりやすく説明しています。
(新潟県生涯学習協会は県教委から市民先生登録に関する事業を受託しています)

◆新潟県立生涯学習推進センター

〒950-8602 新潟市中央区女池南3丁目1番2号 TEL 025(284)6110 FAX 025(284)6019
E-mail nlpc@mail.lalanet.gr.jp URL <https://www.lalanet.gr.jp/>

◆新潟県生涯学習協会（住所は同上センター内）

TEL・FAX 025(250)0121 E-mail syakyo56@feel.ocn.ne.jp URL [https://www.niigata-lla.com/](http://www.niigata-lla.com/)



特集 コロナ禍の中の社会教育活動

- 4P…1「コロナ禍の公民館活動」（十日町市水沢公民館：根津 正喜）
- 4P…2「プレママ学校オンライン同窓会の取り組み」（新潟市中央公民館：竹内 範子）
- 5P…3「コロナ影響下での新たな取り組み」（刈羽村生涯学習センター「ラビカ」：平田 晋一）
- 5P…4「コロナウィルス対応に思う」（小千谷市公民館：久保田 千昭）
- 6P…5「コロナ禍での子ども食堂の活動」（特定非営利活動法人にいがた子育ちステーション：立松 有美）
- 6P…6「これからも三密にこだわって」（上越市名立地区公民館：沢田 繁）

人と人を分断するような新型コロナウィルス
感染症は私たちに人とつながることの重要性を改めて実感させることになりました。コロナ禍の中で工夫を重ねてつながりを確保する活動を見つけました。

生涯学習聞き歩き

今回は三条市の下田公民館を紹介します。下田公民館は文部科学省の2019年度優良公民館表彰の「優秀館」に県内で初めて選ばれました。評価された点は4年前から開始している出前講座の開催でした。「わたしたちの公民館は……」と語る下田公民館の魅力を利用者の堀江ユミさん、山屋令子さんのお二人と職員の大久保有美さんにお会いして見つけてきました。

下田公民館が担当するエリア（旧下田村）は東京23区の約半分もの面積に64集落があるという広さです。公民館職員は2名で年間約30事業を開催しています。公民館の一日は朝9時に近隣の皆さんや利用者が集うラジオ体操から始まります。



きれいに整備された公民館

魅力の一つ目は、地域へ出かける事業です！

希望する集落へ、要望したプログラムを携えて出かけて行く「出前講座」の実施です。

きっかけは、今から5年前に高齢化、過疎化が進む中で、地域へ出かけてインタビューを行ったそうです。なぜ公民館に来ることができないのか、理由やニーズを把握した結果、求めているもの、困っていること、地区の集落センターまでなら行くことができるなどの声を捉えた出前講座のねらいが定まりました。

プログラムは毎年変わる6つのメニューから選べるようにしました。地域の老人会・婦人会と連携し、会場は地域の集落センターで、人気メニューは時代劇ドラマの上映会やアマチュア歌手による歌謡ショーなどできるだけ要望に沿う内容です。今年度は新しいメニューに自宅で育てた野菜などを持ち寄り教え合う料理教室を予定していましたが、コロナ禍により延期になっています。

この出前講座は、地域の住民の皆さんのが集まって交流することが目的です。人の暮らしには他者とのつながりや関わりが重要です。集まることさえ難しくなっている状況だからこそ、楽しめるメニューを携えて、その地域で開くのです。

第8回 自分たちの近くまで 公民館がやってくる

多彩な出前型講座

これには、出前の労苦をいとわない職員の存在が大きいといえます。

魅力の二つ目は、職員の魅力です！

下田公民館に勤務して10年目の大久保有美さんの存在です。いつの間にか公民館施設周辺の草取りをする方や、公民館内の壁面の飾りつけを担う団体、

また主催事業開催時に運営をサポートする方々、“大久保さんが居る下田公民館大好き人間”が集まっています。今回、お会いしたお二人からは「私たちの声に耳を傾けてくれる」、「住民の要望に応えてくれる」、「待っていてくれる」、「大好きです！」などの声が聞けました。

また、大久保さんは、「公民館で待つ出合いだけでなく、出かけて行く先々の出合いも楽しい」と語ります。今では地域の皆さんがあなたを待つようになっているそうです。

魅力の三つめは、公民館の魅力です！

社会教育の現場となる公民館。広いエリアの中で職員が工夫と努力を重ね、地域の人が喜ぶ事業を実施することで人と人がつながり、地域が元気になり、結果地域の人が幸せになるという公民館のひとつの姿を下田公民館が見せてくれています。きっと、困ったら相談できる公民館もあるのでしょうか。

今回は楽しそうに活き活きとしている方たちに出会い、やはり要是「人」だと、感じさせてもらいました。



新たな自分と出会う②

出会いの楽しみが原動力

人生100年時代。リタイア後の長い時間の過ごし方、最期まで自分らしく生きることが課題になります。このコーナーはセカンドライフを楽しく過ごしている方を紹介しながら、後半人生のあり方を考え合っていきます。

第二回目に登場する方は胎内市の細野 隆さんです。教員を退職されて8年目、畠仕事の傍ら生き生きとエネルギーッシュに社会教育活動に勤しむその姿からは精神的な若さと熱量が伝わってきます。

熱く活動するエネルギーの源は20数年前に派遣社教主事として学校を離れ、社会教育の現場を経験したことになります。今の私があるのは「いろんな人と関わることはこんなにも楽しい!」と感じさせてくれた社会教育のおかげと話します。

1

目からウロコの 派遣社会教育主事経験

20数年前に派遣社会教育主事として学校を離れ社会教育の現場に飛び込んだ日々は正に目からウロコでした。学校は来て当たり前、ところが来てくれてありがとうから始まる社会教育、忘れられない衝撃的な体験でした。

派遣社教主事の勤務地は当時の北蒲原郡加治川村（現、新発田市）、多くの魅力ある地域の皆さんと出会い、村の社会教育振興のために共に活動し、派遣が終了して学校へ戻ってからもずっとこのつながりが続いています。

※派遣社会教育主事制度

昭和49年度から開始され、市町村が社会教育の中核となる専門的職員として優秀な教員を確保できるよう、都道府県が適切な人材を市町村の求めに応じて派遣する制度。平成10年度に国からの補助が終了したことにより、新潟県も派遣制度を終了した。



講師打合せ

3

「七社塾」での日々

この事業を支えてくれる講師は、教員OB、塾講師、大学生、専門学校生、それに地元の高校生たちと多彩なメンバーです。スタート以来関わってくださっている講師の「七社塾だから参加したいのです」との言葉に勇気づけられています。子どもたちとの接し方の素晴らしさに敬服しています。また、地元の中学校を卒業した高校生が今度は講師として多数参加してくれていることも嬉しいことです。この地域を愛する気持ちが伝わってきます。子どもたちの関わり方や自分の進路について先輩講師からのアドバイスも。

これまで参加してくれた子どもたちの中には、保健室登校の中学生がいました。学習意欲のあるその子は英語検定準2級合格を目指したい気持ちを私に話してくれました。私はできる限り資料を提供しました。結果合格・・・現在大学生です。また、小学6年生から自分のいろいろな思いを聴いてほしいとのリクエストがあり、「つぶやきカード」をつくりました。子どもたちから学ぶことが多い日々です。

2

新発田市の土曜学習支援事業に参画 「七社(ななやしろ)塾」がスタート

新発田市は県のモデル事業として加治川公民館を会場に子どもの学習支援の場を開設することになりました。以前からのご縁で会場の運営責任者となるコーディネーター役にと声がかかり、その内容に共感し引き受けました。8年前のことです。

1年半をかけた準備期間中は公民館職員と共に構想を練り、ねらいや取組内容等の明確化を図ることに時間をかけました。そして地域や学校も加わる運営委員会を設け、地域と学校、公民館が密接に連携して事業を進めるスタイルを作りました。「見直そう生活習慣、身につけよう自学の力」をテーマに6年前にスタートしました。地名の「七社」から名前を付けました。

現在参加対象は加治川中学校と七葉中学校の生徒と2校へ進学する3小学校の5・6年生児童です。

4

これから

社会教育主事の資格を取得し、実際に社会教育の現場を体験できたことは宝です。当時は県内120市町村全て派遣していました。現在、有資格の教員が多数いますが、それを役立てることができないことを残念に思います。私は、地元胎内市の社会教育係によく顔を出します。学社連携は子どもたちの育ちにとって大切です。これまでの自分の経験やネットワークを生かし、全国の取組に学び、子育てや地域作りの活動で自分を生かすことができれば幸せだと思います。まずは自分が動くことかなと思っています。野菜の苗を眺めながら創造の翼を広げています。



特集 コロナ禍の中の社会教育活動



① コロナ禍の公民館活動

十日町市水沢公民館 ねづ まさき
根津 正喜

介護予防の分野で「フレイル（虚弱状態）」という言葉を最近耳にします。要介護状態と健康な状態の中間を示す言葉で、介護の必要に陥りやすい状態ではあるけど生活習慣に気をつけることで心身の活力を維持できる状態もあるので、できるだけ体を動かしたりして“フレイル予防に努めましょう”と言ったりします。

コロナ禍で公民館活動の自粛状態が続くと、これまでの週に1回程度体を動かしたり、仲間とおしゃべりしたりという生活リズムが変わり、家の中につい閉じこもり気味になる人も出てきます。公民館の利用者はともするとこの「フレイル」の状態になっているのではないかと心配になります。

この原稿を書いている現在（9月初旬）、当公民館では、新型コロナウィルス感染予防のための自粛がある程度解除されて、ほぼ通常どおりの活動に戻りつつあるものの、依然として密を防ぐための部屋の利用人数制限や、マスクやフェイスシールドの着用といった条件つき利用が続いています。利用者の中には、「そこまでしなきゃならないんだったらしばらく休む」という活動休止状態の団体が若干あります。

以前公民館で行った介護予防講演会で講師の方が、フレイル予防に大切な要素として「社会参加」があると言わっていました。心身共に健やかな日々を送ることができるように、コロナ禍での公民館活動の意義を改めて見直しています。



② プレママ学校 オンライン同窓会の取り組み

新潟市中央公民館 たけうち のりこ
竹内 範子

「プレママ学校同窓会をオンラインでできませんか?」と受講者からメールが届いた。新型コロナウィルス感染拡大防止対応の中、何か手立てはないか考えていた矢先だった。

平成20年度から始まった「プレママ学校」は、妊婦とそのパートナーを対象にした4回連続講座で、そのうち1回は小学校の授業に参加し、児童に命の大切さを伝えている。また年度末には、生まれた赤ちゃんと一緒に同窓会を開催している。

試行錯誤の末、その同窓会をオンライン会議用ソフト（Zoom）を使って6月22日と7月12日に開催した。1回目は赤ちゃんの紹介と出産状況等の共有、2回目はパパの参加も促し、Zoomの機能を活用してグループを作り、子育ての悩みを話し合った。講師である助産師からは、「赤ちゃんの目を見て抱っこして、そのぬくもりを感じることが一番大切。自信をもって。」というメッセージが送られ、最後に受講していた頃の写真を映し、「Today/今日」の詩を添えることで出産前の気持ちをみつめる時間をとった。

感想には、「皆さんのが自分の子に手を振ってくれて嬉しかった。」とあり、コロナ禍で子育てをしている現実に、公民館はいつでも手を振り、声を掛ける存在でありたいと思った。

「会えない時間が愛を育てるのさ」という昔のアイドルの歌詞がふいに口を衝いた。会えない今があるから今度はみんなで会いたいと願う、その思いを繋ぎたい。

平成29年に文部科学省から出された「人々の暮らしと社会の発展に貢献する持続可能な社会教育システムの構築に向けて論点整理」の「技術革新と第四次産業革命の進展」の項目には、すでにオンラインの利用による学習形態や学習場所、学習方法の提供方法の変化について記されている。オンライン化のスピードは加速し、学びのチャンネルは増えた。できる人ができることをやりながら、学びを止めない工夫をこれからも進めていきたい。



③ コロナ影響下での新たな取り組み

刈羽村生涯学習センター「ラピカ」 平田 晋一
ひらた しんいち

(1) 「ラピカオンラインストア」をオープン

生涯学習事業の受講申込みをオンラインで行えるようにしました。7月よりラピカ教室が再開しましたが1つの大きな課題として、今までの来館受講申込みでは館内が大変混雑し、十分な三密対策が困難な状況でした。そこで利用者の皆さん安心・安全や利便性を考慮し、ラピカホームページ上で教室の申し込みから支払いまで行うことができる環境を整備しました。その結果、多くの方から喜んでいただいています。

(2) オンラインレッスンのスタート

ラピカ教室の中でも人気が高いピラティス教室は、Zoomを活用して自宅で受講可能な「おうちでピラティス」として開催しました。初めての挑戦でしたが事前に準備やテストを行い当日はスムーズにレッスンを進めることができました。今後はオンラインレッスンのバリエーションを増やすことやZoomが苦手な方もレッスンを楽しめるよう内容を工夫して開催していく予定です。



(3) 「おうち時間を楽しむ」動画を発信

刈羽村野球連盟と協力し「おうち時間を楽しむ」をテーマに自宅で楽しみながら行えるトレーニング動画を作成しYouTubeで発信しました。選手たちが実際に集まっての練習ができない中、自宅でも気軽に楽しみながらトレーニングできる内容を伝えることができました。

④ コロナウィルス対応に思う

小千谷市公民館 久保田 千昭
くぼた ちあき

令和2年は、オリンピックを迎えた年になると思っていましたが、コロナ対応で生涯学習関係事業は、まったく違うものになりました。その結果「顔を合わせて、語り合うこと」を大切にしていた公民館も変革の時を迎えたようです。

未だ成人式の開催対応のように混迷している事業もありますが、6月頃からは事業実施の可否や運営がパターン化され「できる方法でする」としてすすめてきました。

この間、以下の3点についてあらためて考えることが多くありました。

- ①「行政と市民との意識の違い」・・・学習課題の現場に行っているか。その気持ちや声を聴いているのか。独りよがりになっていないか。行政目線に偏っていないか。
- ②「施設の学習環境の整備や情報化の遅れ」・・・予算獲得を諦めていないか。情報を掴むチャンネルがたくさんあるか。インテリジェントスクールの一翼なのか。
- ③「条件整備者たる公民館らしい活動」・・・学習者と話しているか。公民館分館や地域コミュニティに必要とされているか。相談・助言・指導ができるのか。

すぐに答えはでませんが、公民館が行っていた「子育て」「認知症予防」「健康」などの学習は、行政課題として細分化・統合され、他部局で実施されている今だからこそ、「何でもできる公民館だからこそ何をするか」を常に問いかけていきたいと思います。

最後にコロナ禍で挑戦した事業を一つPR。
「小千谷の歴史放送局」で検索を





特集

5 コロナ禍での子ども食堂の活動

特定非営利活動法人にいがた子育ちステーション理事長 立松 有美

コロナ前の「ふじみ子ども食堂」は、毎月第2・4木曜日の午後5時～7時30分開催。毎回80名前後の方々が参加し、皆でご飯を食べたり、公園で遊んだり、ボードゲームをしたり、大人たちは世間話をしたりする賑やかな場所でした。しかし、コロナが流行りだすと、三密の条件を備えている為に休止せざるをえなくなりました。

休止を決めた後に「コロナだから支援が必要な人たちが増えている。休んでいいのか。」というボランティアさんの熱い思いで、安心・安全と衛生管理を徹底したお弁当の配食形式で再開しました。それに加え、学生さんたちがバイトが無く生活に困っているという話があり、「学生応援!フードパントリー」を始めました。

(フードパントリー：食品の無料配布活動)

そこで見えたのは、今まで食堂に来なかった学生さん（中・高・大学生）たちにも日常的な支援が必要だということです。これは食堂をやっているだけでは気づきませんでした。

もどかしいのは、アウトリーチしていた所はお弁当を持って行きやすくなつた利点はあるものの、ギリギリでやっていたらう人たちの話が聞けなく、様子が見えづらくなつたということです。

また一緒にワイワイしながら皆でご飯が食べられる日が来る事を、今できることをやりながら待ちたいと思います。



6 これからも「三密」にこだわって…

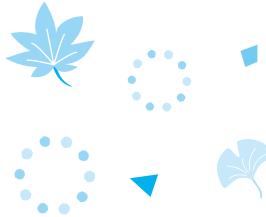
上越市名立地区公民館 沢田 繁

「大きな鍋でつくり、みんなで食べたカレーの味」、「キャンプファイヤーで歌って踊ったジエンカ」、「就寝時間後に大人の目を盗み、テントにおやつを持ち寄り語り明かした夜」‥‥誰もが経験したことのあるキャンプの一コマ。このように定番の事業を一つとっても、私たち公民館が主催する事業は、密閉・密集・密接は避けて通れない。

このコロナ禍で、当市でも、緊急事態宣言が収まるまでは公民館の講座や集会が一切できなかつた。しかし、住民の賑わいづくり、まちづくりの取り組みは求められる。そのような時に、巷でも話題になつたWeb会議サービス「Zoom」を、町内会の活動で使う機会があつた。その簡単さと便利さに驚き、早速、上越教育大学の情報工学の先生に協力をお願いして、うちの公民館で「Zoom」の講座を開催することとした。

まずは体験してみようと呼びかけたところ、特に働きかけもしない中で10人以上の申し込みがすぐに集まつた。自宅にいる私と公民館を結んだオンラインでのやり取りを、参加者から実際に見てもらつた。2回目の講座では、所有するPCやタブレット、スマートホンを持参してもらい、「Zoom」の設定からオンラインでのやり取りまでを自分自身で体験してもらつた。

現在、市内のいくつかの公民館から、「Zoom」講座の実施方法などについて問い合わせが来ている。こうやって、コロナ禍の中でも講座を開催できるツールを知ることができた。しかし大事なことは、オンラインでも温かい血の通つた繋がりができるかどうかだ。やはり、地域の課題解決やまちづくりの活動は、人ととの信頼関係の上に成り立つ。オンラインでも、なんとか三密を創り出さねばならない。それは、私たち公民館職員の経験と知識、知恵にかかっているのではないか。



県立生涯学習推進センターから



チカラをカタチに～活用手帳～

はじめに

このチラシに見覚えはありませんか。

新潟県には、こんな素敵なお取組があります。現在、県教育委員会主催の「いきいき県民カレッジ」では、成果活用促進事業を推進しています。ボランティアの皆様方お一人お一人のお手元に、ぜひ「活用手帳」をお届けしたいのです。

活用手帳のねらい

ねらいは、「生涯学び活躍できる循環型生涯学習社会の実現」です。

「活用手帳」の利用は、ボランティアの皆様方の励みと大きな喜びにつながります。

活動の流れ

- 1 県立生涯学習推進センターに「活用手帳」の必要数分を申し込みます（県立生涯学習推進センターが「活用手帳」とスタンプを送付します）。
- 2 ボランティア活動を行った際に、担当者（機関・団体代表者）が「活用手帳」にスタンプを押印します。
- 3 スタンプがたまつたら県立生涯学習推進センターに奨励証の申請をします。
- 4 奨励証が交付されます。

ボランティア活動の対象例

各機関・団体が認めた活動の全てが対象となります。

スタンプ数と奨励証

ボランティアの皆様方の「チカラ」を、「活用手帳」を通じて奨励証という「カタチ」にしていただきたいと思います。

25個	鳥屋野潟賞	50個	笹川流れ賞
100個	美雪賞	150個	信濃川賞
200個	翡翠賞	250個	学長賞

奨励証は、スタンプ数に応じた上記6種類があります。例えば、「活用手帳」にスタンプが25個たまり、県立生涯学習推進センターに申請していただくと、県知事から「鳥屋野潟賞」の奨励証が交付されます。

お問合せ先等

いつでもお気軽にお問い合わせください。

県立生涯学習推進センター：担当 五十嵐（Tel：025-284-6110）

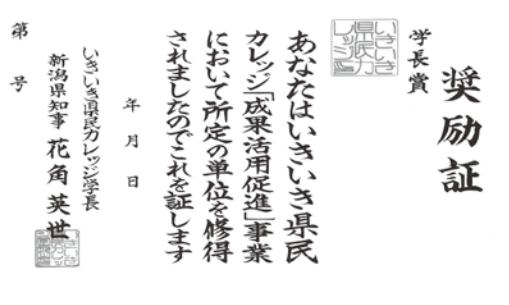
当センターHP「ラ・ラ・ネット：<https://www.lalanet.gr.jp/>」のトップページ上から詳細をご確認いただけます。

支えていただいたチカラをカタチに 2話 - 活用手帳 -



お問い合わせ
お申込み ☎ 025-284-6110

新潟県立生涯学習推進センター
担当：五十嵐（成里里活用手帳促進事業）



ひと・人・ひと

新潟市 三條 永二さん
さんじょう えいじ



三條さんは市民科学研究者として地球温暖化の原因を追究し、広く市民に向けてその警鐘を発信しています。市民科学（者）は物理学者の故高木仁三郎氏が提唱した「学術研究を職業とする者だけが科学者なのではなく、市民自らが科学知識と批判力を手にする必要がある」という考え方賛同し使用しています。

以前から地球の温暖化について研究を重ね、気温の上昇、暴風雨や台風の大型化を招いている現象を警告してきました。温暖化の阻止は地球上の全人類が取り組むべき課題であるとの必要性を説きます。そのためにはCO₂の濃度と気温を低下させることが求められ、15年も前から光合成緑化、再生電力、循環肥料の3つの取組みを推奨しています。

70代半ばにしてなお熱い思いで温暖化阻止の啓発活動を続ける三條さんです。

興味、関心のある方は下記へ連絡ください。

【連絡先】

E-mail : eiji-3s@m9.dion.ne.jp
(三條)



地元中学校での環境学習出前講座



編集長のつぶやき 「百年かかる」

昨年の今ごろは、東京オリンピックの代表選考会がありメダル有望選手が続々と決まって拍手を送っていた。全豪優勝の大坂なおみ選手や全英優勝の渋谷日向子選手の活躍などの明るいニュースが多かった。

まさか年が明けたら、コロナ騒ぎが起きて社会的ルールが変わるほどの事態になってしまうとは思ってもいなかった。来年のオリンピックの開催も危ぶまれている。今のところは人の接触を避けることが最大対策だ。人とのつながりや絆が健全な社会づくりの最善策と言いつけてきたが、一度壊れた社会的ルールを元に戻すのは百年かかるかもしれない。

嫌なことを忘れるには楽しいことを思うに限る。全仏オープンの錦織が優勝は夢か。首相交代は夢の話題にものぼらない。今年も残すところ二ヶ月余になって、何か良いことが起きると信じて希望を持とう。(田原)

掲示板



にいがた早寝早起き朝ごはん

～県民フォーラム2020～

11月22日日

時間/10:00～15:30

会場/新潟ユニゾンプラザ

関連事業ご案内

★生活習慣向上講座!★

- 定員15名（当日直接会場へ）
- 参加費無料 ●会場:4F小研修室1
- 第1回10:15～10:45、第2回13:15～13:45

★オンライン家庭教育講演会★

「そしてパパになる」
～父親の家庭教育支援を考える～

講師:京都光華女子大学准教授 松本しのぶさん

- 参加費無料 ●接続定員先着50名
- 申込み後にID/パスワードを連絡
- 会場:4F小研修室3(視聴可定員15名)
- 申込み:TEL 025(224)2088(新潟市中央公民館)

★フォーラム問合せ★

県教育庁生涯学習推進課

TEL:025-280-5616

賛助会員

~私たちは、新潟県生涯学習協会を応援しています~



限りある人と自然と文化の共存。

